



兵庫県立洲本高等学校教諭 別所 義則

教科書を活かす授業の取り組み

1. はじめに

「教科書の LESSON 1 を開けてください」「この英文を見てどう思った？」

生徒からさまざまな反応が返ってくる。「ひとつの文が長い」「難しい単語が多い」「文章が長い」…

入学後間もない生徒の率直な感想だと思った。ここで生徒に向かって「英語の授業は英語で何を教えてもいいわけではなく、文部科学省の示した学習指導要領に沿って作られた教科書を使って行うものです。この教科書の表紙の上に『文部科学省検定済教科書』って書いてあるから、文部科学省はこれぐらいのレベルの英語を皆さんにわかって欲しいと考えています。だから私の役目は、皆さんが難しいと思っているこの教科書の英文を、少しでもわかりやすくして授業をし、理解してもらおうことです」と言い、自分にプレッシャーをかけた。そして今年度の授業がスタートした。

2. 指導の実際

今年度は音読の量を増やして、生徒に英語をインプットすることを中心に指導しようと考えた。教科書 *New Edition UNICORN ENGLISH COURSE I* の私の進め方は、次のとおりである。

① CD によるリスニング

Oral introduction のあと、教科書、「予習・サブノート」を閉じた状態で CD のストーリーを聞く。

② フラッシュカードを用いた新出単語、熟語の指導

フラッシュカードは、導入段階と復習段階の両方に使用している。特に前時で学習した単語・熟語をフラッシュカードを用いて次の時間の最初に読ませて、発音と意味を再確認することは生徒から好評である。「忘れていても思い出せるし、記憶につながる」「アクセントの位置がわかりやすく覚えやすい」という声をよく聞く。同時に発音記号の指導も

少しずつ入れるようにしている。

③ Writing の練習

単語の読み方と意味が理解できたら、ここで「Writing の練習」というタイトルのプリントを生徒に配布する（資料1）。Part ごとにひとつの単語を3回ずつ書く練習をする。5分程度で終わる。この作業を通して新語の定着を図っている。

④ 本文の内容理解

「予習・サブノート」を活用し、英文の内容を説明していく。ときどき生徒に質問しながら、指示語、用法、文構造、意味を確認していく。途中、「辞書で調べさせたい単語」をこちらで必ず1個～2個は考えておき、その部分に来たときに生徒に単語を引かせることによって、辞書指導をしている。本校では1年生の全員に紙の辞書を使用させている。品詞、意味、文構造、イディオムなどがあるが、そのなかで特に何を調べさせたいのか、目的を明確にして指導することが大事である。こうすることで、毎時間辞書を使用する習慣をつけさせている。

⑤ 脚注例文

〔脚注例文〕はあとでまとめて、ペアで意味を考えさせている。そしてペアで考えた意味を発表させて、クラス全体で共有するようにしている。

⑥ 音読活動

⑤のあと、音読活動に入る。よくやるのは、クラス全員を立たせたあと、「予習・サブノート」の左ページ上に掲載された本文を四方読みすることである。このページは sentence ごとに番号がついていて、また chunk ごとにスラッシュが入っているので四方読みには便利である。四方読みの1回目は、全員が教師の方を向いてスラッシュごとに読みながら、教師のあとをリピートし、Part 全文を読む。2回目は、生徒は全員廊下を向く。1回でリピートする長さを少し長くして、全文を読む。3回目は全員が後ろの黒板を向き、1回でリピートする長さをさらに長くし、全文を読む。4回目は中庭に向かせて、

sentence 単位の長さで全文をリピートしていく。
そうして英文を頭の中に残す作業が終わる。

⑦ Shadowing

着席させ、本を閉じて、shadowing の練習に入る。

四方読みするときより読むスピードは落ちる。したがって、場所によっては chunk ごとに読ませたあと、もう一度 CD のストーリーを聞く。そして聞き取れる量が確実に増えていることを確認する。

(資料 1)

LESSON 3 Part 4

New Words Writing の練習

p.33

interactive 意味 ()

① ② ③

technique 意味 ()

① ② ③

compete 意味 ()

① ② ③

tutor 意味 ()

① ② ③

scream 意味 ()

① ② ③

irritated 意味 ()

① ② ③

p.34

impossible 意味 ()

① ② ③

deny 意味 ()

① ② ③

ORGANIZER

interviewer 意味 ()

① ② ③

⑧ 内容把握

その後、「Workbook Advanced」のSUMMARYや「予習・サブノート」のUnderstand the Contentsの空所補充をさせる。これらを通して生徒の内容把握の状況を確認してから、教科書のQ&Aに入る。この問いは答えやすく、内容理解の確認に適切である(資料2中段)。

⑨ Part ごとのまとめ

生徒には各Partが終わるたびに、「Partで学んだこと」という項目に記入させている。各Partのストーリーから学んだことや、文法項目で勉強になったことを書かせ、学習を振り返らせている。生徒の「学んだこと」を読むたび、こちらも学ぶことがあり、今後の授業の展開の参考になっている(資料2下段)。

⑩ 文の転換練習

最後に、文の転換練習を行っている。各Partの本文からこちらで文をひとつ抜き出して、それをいろいろな疑問文に変え、その答えを言わせるものである。これは私が中学2年のとき(1979年)に学んだNHKラジオ「統基礎英語」の文の転換練習の手法を用いて、授業に取り入れたものである。本文から抜き出した文の疑問形、その答え方、疑問詞を使った疑問文の形、その答え方、否定形をクラス全体で一通り確認したあと、ペアでQ&Aの練習をさせている。コミュニケーションの練習としては本当に基礎的なものであるが、自ら質問し答える練習をしておくことは必要なことと考えている(資料2上段)。

3. 生徒による授業評価から

本校では毎学期、「生徒による授業評価」を行っている。教師はさまざまな観点から生徒による評価とコメントをもらうことになっている。これは生徒のニーズを知る絶好の機会である。

教務部が「評価週間」の1週間で指定する(1学期は6月末)。担当者はアンケートを配り、その学期の授業の評価を生徒に書いてもらう。担当者は結果を集計して、教務部に提出をすることになっている。

私の場合、「生徒による授業評価」は対象生徒3クラス、合計118名であった(英語Iを指導しているクラス)。

質問1 (進度について) 授業の進み方は適当ですか。

- A 適当 93名 B やや速い 18名
- C 速い 3名 D 遅い 4名

質問2 (板書・プリントについて) 板書・プリントは整理されていてわかりやすいですか。

- A 大変わかりやすい 28名 B わかりやすい 83名
- C わかりにくい 7名 D とてもわかりにくい 0名

質問3 (説明について) 説明はわかりやすいですか。

- A 大変わかりやすい 25名 B わかりやすい 88名
- C わかりにくい 4名 D とてもわかりにくい 1名

質問4 (学習効果について) 今学期の授業で新しい知識・技術等の習得ができましたか。

- A よくできた 25名 B だいたいできた 78名
- C あまりできなかった 14名 D 全くできなかった 1名

質問5 (総合評価) 今学期の授業を総合的に評価してください。

- A よい 35名 B だいたいよい 79名
- C あまりよくない 4名 D 悪い 0名

集計結果を見ると、クラス全員が満足し、力をつけられる授業をすることは本当に難しいと実感する。しかし大事なものは、少しでもそれに近づこうと自己研鑽をする姿勢だと思う。

次は生徒の感想からの抜粋である。

- ・読むことが多いので、よく覚えることができる。
- ・説明がとてもわかりやすいです。
- ・楽しいし、よくわかるのでこのままでよい。
- ・単語のアクセントの位置を強調してくれるのでとてもわかりやすいです。
- ・新しい知識が身につけているのでよかった。
- ・得意教科にできるようにがんばっていきたい。
- ・単語の意味が確認できるのでうれしい。授業(説明)がくわしいので頭に入りやすい。
- ・板書、プリントが整理されていてわかりやすいです。

- ・進度が適当なので授業を受けやすい。
- ・英語以外にも様々なことが学べてよかった。
- ・やっぱり英語は難しい。

「いい授業とは何か」といまだに自問自答が続くなかで、自分の1学期の授業の運営は生徒からほぼ好評であったようだ。しかし、これに満足してしまっ
てはいけないと思っている。

最後に、1学期に使用した教材は LESSON 1 *YOU CAN CHANGE THE WORLD*, LESSON 2 *UNIQUE SPORTS*, LESSON 3 *ALEX THE PARROT* である。どれも深みと面白みがあった。実は教材を一番楽しんでいたのは私かもしれない。「次の LESSON の内容は何だろう」と楽しみにしながら教材研究をして、授業を通してこれからも教材の面白みと感動を伝え続けていきたい。

(資料2)

pp.33-34 LESSON 3 Part 4

It is impossible to deny parrots' intelligence.

(1) (*question*)

(4) (*answer*)

(2) (*answer*)

(5) *What?*

(3) *parrots' technique?*

(6) (*parrots' intelligence*)

Q&A

⑩ Why does Alex begin to compete with the student?

⑪ Who has become a tutor for Griffin?

⑫ After Alex became irritated, what did he tell Griffin to do?

Part 4 で学んだこと